

## 第 8 号

平成15年 4月 1日 発行  
諏訪二葉高等学校同窓会  
東京支部編集委員会

題字 今井綾子 (高女28回)

# 二葉

## 東京支部だより



### 母校校舎竣工記念式典に参加して

—若き後輩たちに願うこと—

支部長 北沢妙子 (高校11回)

会員の皆様にはお変わりなくお過ごしでしょうか。皆様のご協力により隔年発行の東京支部だより「二葉」第八号をお届け出来ますことを心から感謝致します。今号は高女三二回の大先輩から高校五一回の男子会員(平成一年卒業)まで幅広い世代の同窓生からご寄稿いただき「これぞ同窓会」という会報になり嬉しい限りです。さて、母校は校舎改築工事も無事に済んで昨年一〇月にめでたく竣工記念式典を終えることが出来ました。東京支部からも四〇名余の同窓生が参加して、昔の面影を残しつつも最新の設備の整った新校舎に感嘆の声を上げました。式典に先立ち行なわれた彫刻「揺籃」(作者は東京支部会員の井上玲子さん)の除幕式や盛大な記念式典、場所を移しての祝賀会にも参加して共に慶びと感動を分かち合いました。

### 共に生きる場として



前支部長 河西八恵子 (高校10回)

が決まりました。時の流れ、季節の移ろい、生徒たちの喜怒哀楽を映してそこにあり続ける彫刻「揺籃」を想像すると喜びに胸が高鳴ります。

皆様元氣にお過ごしでしょうか。東京支部だより第八号の発行を心からお喜び申し上げます。この歴史の重みを大切に受けとめながら、平成一三年度は、会員名簿学年版の発行、同期会活性化を考える情報交換会、新卒業生へのパンフレット作成等、役員、幹事の皆様の誠意と努力により、次に繋げる成果を得たと思います。

一方で、生活環境の変化を考えて、役員、幹事の負担軽減と仕事の効率化そして、一人でも多くの人が楽しく参加出来る会を念頭に取り組みました。また校舎改築記念事業の年にあたり、募金には東京支部の皆様にも多大のご協力をいただきました。そして記念事業のひとつとして東京支部推薦、同窓生井上玲子さんの彫刻作品が、生徒の憩いの広場である中庭に設置されること

ここに改めて、これまで改築事業に関わってこられた多くの方々のご尽力に感謝と敬意を表します。

式典会場に規律正しく座した在校生を目にしたとき、この記念すべき時を共有出来て感慨もひとしおでした。そして先輩諸姉が築き・磨き・護ってこられた同窓会の灯をこの若き後輩の皆さんの手で更に輝くものにして欲しいと願わずにはいられませんでした。

今年度第一回幹事会の出席最若年は高校二九回生でした。東京支部がますます充実し発展する為にも、二一世紀を歩む後輩の皆さんが新しい風を運んで下さるよう心から期待しています。

総会の講演で、リハビリテーションの世界一筋に活躍してこられた同窓生鎌倉矩子さんが、今そしてこれからに備えて自分たちで創る共生社会への願いを語られました。諏訪の美しい自然、白き学び舎を共通の心のふるさととする私たちにとって、この会が「共に生きる場」の大切な一つとなることを願って知恵を出しあっていきなりたいと思います。



諏訪二葉高等学校  
同窓会長  
久保田園枝 (高校9回)

東京支部の皆様お元気でしょうか。支部総会の折には大変お世話になりました。参加者の多さ、進行のそのなさに驚いたことが思い出されます。昨夏は人間の体温を超える気温が続

くなど、ついぞ考えもしなかった文字どおりの猛暑でした。快適さ、便利さの追求がこうした現象を起すひとつの因になっていることを考えます時、私たち一人一人の生活の見直しの必要性を強く感じます。

脱ダム宣言に端を発し、まれに見る知事不信任案は下諏訪町の砥川の名前とともに県内外の関心を集め、旧体質を変えようという形では大差による再選という形で結末をみました。単に県政のみならずいろいろと考えさせられる出来事だったように思われます。

平成一二年に始まりました校舎改築

## 東京支部だよりに寄せて



諏訪二葉高等学校  
学校長  
小野 仁志

業に際し、賜りました多大なご支援・ご尽力に厚く御礼申し上げます。

さて、旧校舎が姿を消して二年の歳月が流れましたが、今も同窓生一人一人の心の中に生き続けているものと信じます。旧校舎が同窓生の魂のふるさととなり得たのは、その重厚かつ優雅な外観のゆえだけでなく、生徒一人一人がぬか袋や雑巾で床を磨き上げ、建物に血を通わせ、生命をふきこんだ結果であるかと思えます。この生き様が青春を全力で生きる生き様となり、誇りに輝く校舎を生み出したと信じます。

の大事業も、皆様の多大なご協力のおかげを持ちまして時代に即応した諸設備をたくさん備えて完成しました。旧校舎のイメージを残した明るく広い校舎は、木のぬくもりとともに違和感を感じさせない姿です。インターロッキングが張られた中庭は、イベント広場として使える空間となっています。大勢の方々の善意で出来ましたこの良い環境で、感謝の気持ちを忘れず後輩たちが存分に学び巣立ってほしいものとなっております。

皆様のご健勝をお祈り申し上げますとともに、変わらぬご協力、ご支援をお願いいたします。

この全力で生きる生き様を一人の大先輩が「二葉で学んだものは『負けるものか』の精神だった」と話してくれました。新校舎は旧校舎のイメージを色濃く残したデザインです。私共一同、校舎の外観を継承するだけでなく、校舎に生命を与える生き様や、誇りに満ちた学び舎を創造する二葉の魂を継承してまいりたいと考えています。

本県の通学区制も一二通学区制から四通学区制に変わります。変化の時代ですが、変わらぬご厚情をお願い申し上げます。

### 校舎は変わっても

平成一四年一〇月一八日、二葉高校は新たな歴史へのスタートを切りました。このたびの校舎改築並びに記念事

### ☆☆平成12・13年度卒業生の動向☆☆

1) 最近の進路状況 ( ) 内は男子

卒業年度	卒業生総数	進学		就職		(浪人・家居)	
		人員	比率	人員	比率	人員	比率
平成12年度	275(100)	208(66)	75.6%	4(1)	1.5%	63(33)	22.9%
平成13年度	229(91)	183(66)	79.9%	7(3)	3.1%	39(22)	17.0%

2) 最近の学校別進学状況

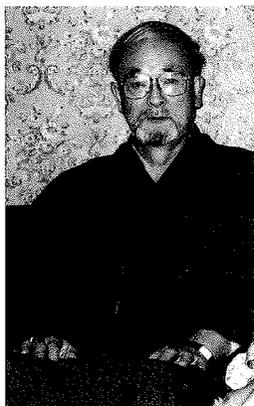
卒業年度	国立大	公立大	私立大	国公短	私立短	専門	その他	計
平成12年度	23	4	90	5	24	60	2	208
平成13年度	18	4	83	10	20	47	1	183

# 恩師だより



二葉で思い出すこと

熊井 章



昭和三〇年代中ごろ、三年間在職しただけです。四〇年間の教員生活の中で、前後県内七校回りましたが、大変印象深い学校でした。

二葉に転勤して、まず驚いたことは、学校中掃除が行き届いて、廊下などもピカピカして顔が映る程だったことでした。前からいる年配の先生が「近頃学校が汚くなった。もつと清掃をしつかりやらせよう」というのを聞いて戸惑いました。時々全校清掃というのがあって、放課後、全員で掃除、職員が先頭にトレパンでやっていました。居場所も無いので、屋上の出口の上のスペースで寝ころんでいたら、何故か校長が来て「先生も一緒にやってお掃除をすると生徒は喜ぶよ」だと。ただし、

そこには生徒も二、三人いました。

生徒の諸君は知らないと思うが、時あたかも、長野県の高校はいわゆる勤評問題で校長と職員が対立し大揺れの時でした。校長が職員の勤務評定をして県に報告する制度、これは大変だと放課後校長と若手職員が交渉をしていました。大いに張り切ったものでした。

校内で進学係をしていました。そのころ切に痛感していたのは、経済学の基本知識なしには、社会の仕組みも、国際紛争の理解も出来ないということでした。進路が決まらず迷っている生徒がいると経済へ行けと指導してしました。卒業生に逢ったりすると、いまだに「どうして私が経済学部へ行ったのかわからない」という者もいます。とにかく、教師として生意気盛りの頃でした。生徒も生意気でした。

現在、各校の職員OB会とか、旧職員の集まる会があります。今の学校内の様子などを聞いて、私は今しみじみと浦島太郎の心境でいます。皆さん、お元気です。

熊井先生プロフィール

昭和三二年着任、数学科。平成二年退

職後、諏訪福島簡易郵便局勤務。年一回の中国旅行、七〇坪の野菜作り。

## 二葉は私の原点

小町谷郁子

企業戦士だった弟が病死したので、父を引き取り在宅介護生活に入り五年目。父一〇二歳、私七〇歳。夫（七〇歳）の協力、介護士さんの助けを受けている。父の残っている能力を出来るだけ長く維持し自立を助けるために、精神的に励まし物理的に工夫を凝らす日々である。「人工的延命はせず自然にあの世に旅立ちたい」と書き置いた父も、「今これを医者に見せて、薬をもらえなくなると困る」と生への執着を見せている。医療をはじめ何事も「自然」であることが困難な時代だ。長い教員生活のおかげで時折招かれる教え子の会、とりわけ二葉のしらか

ば会では元気を与えられている。

振り返って二五歳のとき結婚のため信州に移り、二葉高校に講師として採用された。温かい先生方のご指導や、向上心強く積極的な生徒達に支えられて社会や人生に開眼していった。一年後教諭にさせていただき、「女の先生は要りません」と公言された時代だっただけに本当に嬉しかった。はじめての職員会議で障害のある生徒の入学許可を求めて発言し、支持してくださる先生方もあって実現したこと、女性の生き方についての討論会、生徒と共に参加した安保反対のデモ、遠足のバスの中で歌われたロシア民謡の数々等忘れられない。事情があつて東京に戻り、家庭との両立を考え私立の講師となつたが充実感は無く、また試験を受けて都立高校の教諭となった。

初めて男子を教えるとき、この生徒たちが戦場へ行くことがないようにと心から願った。今もその思いは変わらない。一人一人の人生の重さを考えるとき戦争には正義はない。

小町谷先生プロフィール

昭和三三年数学科講師として二葉高校に着任。翌年から教諭として三年間在任。東京に戻り都立高校教諭。平成五年定年退職。その後五年間嘱託勤務。現在父の在宅介護に専念。

# 平成13年 総会報告

副支部長  
中川美侑 (高校10回)

外苑の緑が映える平成一三年五月二六日、日本青年館で、東京支部総会が小野校長・清水会長のご出席を得て開催されました。出席希望者が大変多く、会場の都合上やむを得ず来賓を含め三〇二人で締め切りました。

千田支部長の優しさをモットーにした温かい同窓会でありたいとの方針が、多くの会員の共感を得たのだと思えます。永年連続出席者や最高齢の先輩を皆が拍手でたたえたこと、裏で予め看護態勢を整えていたことも印象的でした。

会場の壁面を飾る故宮芳平画伯の三〇余点の遺作展示。講演は竹中正夫先生の温厚な語り口での「良寛と宮芳平」。一三七七年の長きに亘る母校での美術教師宮芳平の生涯―スライドによる作品紹介、教え子四人の芸術家が先生の詩を朗読。会場に世代を超えた感動の輪が広がりました。

秋山ミチ子様の美しい歌声と全員合唱「白き翼」で一三年総会の熱い幕が降りました。



- 第一部 定期総会**
- 一、開会のことば 司会 副支部長 河西八恵子 (高10)
  - 二、校歌斉唱 (1、3、5番) 副支部長 中沢 優子 (高9)
  - 三、物故者への黙祷 伴奏 山路 早苗 (高11)
  - 四、支部長挨拶 支部長 千田 洋子 (高9)
  - 五、来賓・客員祝辞 小野仁志校長、清水愛子同窓会会長 支部長 千田 洋子 (高9)
  - 六、来賓・客員の紹介 小野仁志校長、清水愛子同窓会会長、高田恭子同窓会会長 支部長 千田 洋子 (高9)
  - 宮晴夫・紀枝様、鮎沢渡先生、諏訪坂勘一先生、野村とも先生

- 七、議事
- 議長選出
  - 1 平成十二年度事業報告 議長 堀川 節子 (高9)
  - 「支部だより」7号発行 (四千部、コート紙2色刷り) 支部長 千田 洋子 (高9)
  - 幹事交流会 (情報交換、新年交歓会)
  - 各同期会の実態調査
  - 「内規」の改正 東京同窓連、南信同窓連総会出席に限り 2名分 (旧1名) の会費を支給

- 2 平成十二年度決算報告 会計 細田 和子 (高13)
- 3 平成十二年度会計監査報告 監事 竹内 美穂 (高11)
- 4 旧役員の退任挨拶 支部長 千田 洋子 (高9)
- 5 新役員の承認と代表挨拶 副支部長 河西八恵子 (高10)
- 6 平成十三年事業計画 (案) 副支部長 河西八恵子 (高10)
- 7 平成十三年度予算 (案) 副支部長 中川 美侑 (高10)
- 1、7すべて承認 可決
- 8 議長解任

- 八、乾杯 平成十一年度支部長 宮川 秀世 (高8)
- 九、来賓・客員挨拶 鮎沢渡先生、諏訪坂勘一先生、野村とも先生
- 第二部 講演会** 司会 支部長 千田 洋子 (高9)
- 十、講演「良寛と宮芳平」 同志社大名大学教授 竹中 正夫先生
- ―スライド映写と「宮芳平の詩」朗読―

- ◆会場内の壁面に宮芳平先生の作品 (油絵) 8点を展示
- 第三部 茶話会** 司会 副支部長 中沢 優子 (高9)
- 十一、花東・カード贈呈 高女30回生 (9名)
  - 90歳以上 小幡恵菓子様 (高女20)
  - 総会出席50回 永松 律子様 (高女23)
  - 十二、歌二曲 伴奏 秋山ミチ子 (高11)
  - 十三、白き翼他斉唱 山路 早苗 (高11)
  - 十四、旧役員の退任挨拶 代表挨拶 千田 洋子 (高9)
  - 十五、閉会のことば 副支部長 中川 美侑 (高10)

## 平成12年度諏訪二葉高校同窓会東京支部会計報告書

(平成12年4月1日～平成13年3月31日)

### 1 本会計 (収入の部)

項目	予算額	収入金額	備考
1 前年度繰越金	2,342,327	2,342,327	
2 維持費	1,700,000	1,779,360	振替1,215,360 (1,254名)、現金564,000 (561名)
3 雑収入	300	3,397	預貯金利息657、寄付2,500、振込端数金240
収入合計	4,042,627	4,125,084	

### 2 名簿基金

項目	予算額	収入金額	備考
1 前年度繰越金	382,000	382,000	
2 平成12年度積立金	200,000	200,000	
合	582,000	582,000	次年度繰越金

※総会計報告

収入

- ・会費(5000×267人) 1,335,000
- ・本部より会場費 10,000
- ・御祝儀 45,000
- ・本会計より 209,096

合計 1,599,096

### <支出の部>

項目	予算額	支出金額	備考
1 総務部 謝礼	120,000	120,000	お礼代を含む
2 会場費用・諸経費	140,000	89,096	東洋軒支払・総会次第印刷他・諸経費補助
3 名簿積立金	200,000	200,000	
4 会報作成費	240,000	224,921	編集・印刷費 (4,000部)
5 印刷費	30,000	36,300	お香典1、弔電7
6 役員通信費・交通費	120,000	103,400	通信費37,000、交通費66,400
7 役員会費用	120,000	102,729	役員会6回分
8 幹事会費用	400,000	415,264	幹事会3回分、幹事会後の役員会含む
9 通信費	330,000	332,951	会報・総会・幹事会案内送付
10 印刷費・コピー代	60,000	58,392	封筒印刷 (B5版×3,500枚)、資料等
11 事務用品	40,000	35,812	宅急便代を含む、ゴム印
12 渉外 二葉関係	83,000	84,000	本部総会交通費 (2名分)、歴代正副支部長会・旧役員慰労会補助
13 費連合同窓会	46,000	45,000	東京同窓連、南信同窓連
14 雑費・予備費	100,000	19,250	
15 支出小計	2,029,000	1,867,115	
16 次年度繰越金	2,013,627	2,257,969	
支出合計	4,042,627	4,125,084	

### 3 東京支部同窓会基金

項目	収入金額	備考
1 前年度繰越金	613,000	
2 寄付	2,500	本会計雑収入分
3 振込端数金	240	〃
4 本会計より	260	〃
5 特別収入	40,000	ポストカード売上金
合	656,000	次年度繰越金

上記の通りご報告いたします。

平成13年3月31日

会計係 鮎沢 法子 ☺  
細田 和子 ☺

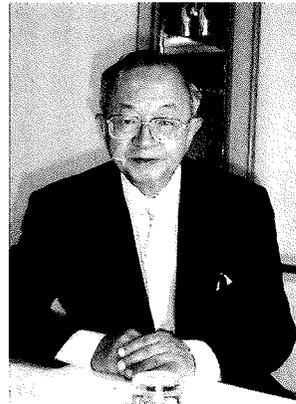
上記は会計監査の結果間違いありません。

平成13年5月9日

平成12年度会計監査 竹内 美穂 ☺  
守屋 静子 ☺

# 良寛と宮芳平

竹中 正夫先生



皆さんこんにちは。一つの女子高校の同窓会総会にこんなに多勢が出席され、すごいパワーを感じております。

今年には宮芳平先生の没後三〇周年に当たる年です。このように皆さんが宮先生を記念して集まられている様子を先生がご覧になったら、頭を掻き「いやあ困っちゃうなあ」と恐縮をしながらも喜ばれるでしょう。

宮先生は一八九三年新潟県に生まれ、苦勞されて東京美術学校に入学しました。そして大正博覧会で入選。森鷗外との知遇を受けたりしますが、妻のえんさんとの間に子供もでき、学費に窮して美術学校を中退します。その後、日本美術院で学び、そこでデッサンの特別賞をもらった後、中村千敏先生の紹介で諏訪高女に就職しました。以来、

一九五八年まで三五年にわたって勤めました。八人の子供を抱え、自分の絵を描く時間の少ないことを嘆きながら、三つの学校を掛け持ちで教えたりしていました。

## 人生途上の三つの時期

作品を私なりに三つの時期に分けてみました。第一期はロマンティズム、美しいものを求めた時期で、ロマンに満ちた青年の孤独な旅や湖畔で物思いにふける少女などを描きました。第二期は非常にリアリスティックにこの世における善きものを問うた現実的な自然主義の時代です。諏訪湖や八ヶ岳、諏訪高女の校舎や裏庭を描き、写実に徹した時期で、写生に一生懸命でした。第三期は宗教的真理を求めた時期で、一九六六年に聖地巡礼に行きます。宗教的なテーマ『降誕』『エジプト逃避』『ユダの椅子』『ゴルゴダ』『埋葬』などが描かれました。

## 「こはわが城わが砦」

彼はこの言葉を木に彫って、図画教室に飾りました。凄まじい勢いで彼は美術教師として、そこを砦としたので

す。教師として宮芳平は非常に印象深い先生だったと私は思っています。

彼は、自由画法、観賞法、手法教授、装飾法の四段階をかなり組織的な考えを持って教えていたようです。最新の手法である自由画をよく描かせました。生徒の自由を尊重し、自然の美しさをじっと見て自由に描きなさいと、写生をさせております。そして、雨の日等には観賞ということを重要視し、いい作品を深く見させ、種々の手法・技法をその度に生徒達に教えました。また装飾法といって、アクセントをつける方法、色の調和をとる方法、あるいは最後のところで安定感を与える方法などを教えました。

「良寛様」という詩を彼は書きましたが、良寛様のように優しく、自然に子供がついてくるような教師になりたいたいと思っていました。私は宮芳平が良寛のような人だった、優しい慕わしい人だった、怒鳴ったりしなかった、そして皆が慕って寄って来たのだろうと思っております。

六〇年代には自らガリ切りして作った『AYUMI』を《愛の花束》として教え子達に送っていました。

## 「天寵の旅人」宮芳平

こう見てきますと、恵まれた人生を送った旅人だなあとありますが、同時に悲哀に満ちた旅でもありました。一

九三六年には五女の迪を亡くし、四三年には妻えんに先立たれるなど苦勞を重ねます。それはこの世に生きるという苦しい切ない戦いをこの人は終わりまで戦って逝った、そして希望を持った巡礼の旅人であったからです。人間の飽くことのない罪というものをいつも考えながら、最後は聖書に戻り、永眠の前日に洗礼を受けます。

今日の社会はタガが緩んでしまっただけで、なんでこんな日本になったんだと思うような時代です。そういう中に宮芳平という「天寵の旅人」を想起して、根を張って草が逞しく生きていくように、未来を信じ、希望を持って共に生きていきたいと願うものです。(宮先生に教えを受けた四人の芸術家が、先生の作られた詩八篇を朗読されましたが、割愛いたしました。)

## 講師プロフィール

一九二五年北京生まれ。京都大学経済学部、同志社大学神学部、イエール大学大学院(哲学博士)卒業。同志社大学神学部教授、聖和大学教授他。(財)日本クリスチャンアカデミー理事長、アジアキリスト教美術協会名誉会長。著書に『天寵の旅人——宮芳平の生涯と作品』『良寛を愛したキリスト者——小倉章蔵の生涯』『倉敷の文化とキリスト教』他多数。

# 平成14年 総会報告

副支部長  
守屋静子 (高校11回)

神宮の新緑が目映い平成一四年五月二四日(金)、東京支部総会は日本青年館に二七四名(会員二六六名、来賓六名、客員二名)を迎えて盛大に開催されました。

挨拶の中で、河西支部長は「諏訪の恵まれた自然と二葉で学びながら考えたこと」、これが私たち同窓生の「支えであり、知性とパワーの源」と二葉生の真髓に触れ、小野仁志学校長、久保田園江同窓会長の祝辞を頂きました。母校の改築工事もほぼ終わり、見学者多数と伺いました。来賓の鮎沢先生は傘寿を迎えられて、ますますお元気なお姿に会場から感嘆の声がありました。同窓生の鎌倉矩子先生(高校10回)をお招きしての講演は、先生が四〇年間にわたって携われてこられた「リハビリテーションの世界で考えてきたこと」をテーマに実例を織り込み、分かりやすい言葉で淡々と語って下さり深く感銘いたしました。



## 第一部 定期総会

- 一、開会のことば 司会 副支部長 北沢 妙子(高11)
- 二、校歌斉唱 副支部長 中川 美侑(高10)
- 三、物故者への黙祷 伴奏 山路 早苗(高11)
- 四、支部長挨拶 支部長 河西八恵子(高10)
- 五、来賓・客員祝辞 支部長 河西八恵子(高10)
- 六、来賓・客員の紹介 小野仁志学校長 久保田園江同窓会会長  
支部長 河西八恵子(高10)  
学校長小野仁志先生 同窓会会長久保田園江様 同副会長大蔵トシ子様 同副会長藤森勝子様 同副会長石田初美様  
支部長 河西八恵子(高10)  
鮎沢渡先生 岩波優子先生 野村とも先生
- 七、議事

- 議長選出 議長 中村美智子(高10)
- 1 平成十三年度事業報告 支部長 河西八恵子(高10)
- 2 平成十三年度決算報告 會計 齋藤 せつ(高14)
- 3 平成十三年度会計監査報告 會計監査 羽深喜和子(高12)
- 4 新役員の承認と代表挨拶 支部長 河西八恵子(高10)
- 5 平成十四年度事業計画(案) 副支部長 北沢 妙子(高11)
- 6 平成十四年度予算(案) 副支部長 北沢 妙子(高11)
- 7 議長解任 副支部長 守屋 静子(高11)
- 8 旧役員の挨拶と退任 1〜6全て承認 可決  
旧役員全員

- 九、乾杯 平成十二年支部長 千田 洋子(高9)
- 九、ご祝儀披露 會計 久保田孝子(高14)
- 十、来賓・客員挨拶 鮎沢渡先生 野村とも先生
- 第二部 講演会
- 一、講師紹介 支部長 河西八恵子(高10)
- 二、講演 「リハビリテーションの世界で考えたこと」  
——市民がつくる共生社会への願い——  
国際医療福祉科大学大学院教授 鎌倉矩子先生(高10)
- 三、謝辞 支部長 河西八恵子(高10)

- 第三部 茶話会
- 一、花束・ポストカード贈呈 司会 副支部長 中川 美侑(高10)
- 二、歌 高女31回生(九名)  
指 導 野村とも先生
- 三、今日の日はさようなら斉唱 伴奏 山路 早苗(高11)
- 四、閉会の言葉 副支部長 守屋 静子(高11)

## 平成13年度諏訪二葉高校同窓会東京支部決算報告

(平成13年4月1日～平成14年3月31日)

### 1 本会計 (収入の部)

項目	予算額	収入金額	備考
1 前年度繰越金	2,257,969	2,257,969	
2 維持費	1,800,000	1,657,000	振込1,158,500 (1,231名) 現金 498,500 (500名) 計1,731人
3 雑収入	500	16,279	預金利息
収入合計	4,058,469	3,931,248	

### 2 名簿基金

項目	予算額	収入金額	備考
1 前年度繰越金	582,000	582,000	
2 平成13年度積立金	200,000	200,000	
合計	782,000	782,000	

### ※総会会計報告

収入	金額
・会費(5,000×284)	1,420,000
・本部より会場費	10,000
・御祝儀	50,000
・本会計より	250,017
合計	1,730,017

### (支出の部)

項目	予算額	支出金額	備考
1 総講師等謝礼	120,000	120,000	
2 会場費用・諸経費	140,000	130,017	
3 名簿積立金	200,000	200,000	名簿基金へ
4 名簿追加訂正版	110,000	106,860	3,000冊
5 弔慰金	30,000	3,960	弔文レタックス
6 役員通信費・交通費	120,000	102,820	役員通信費37,000 交通費65,820
7 役員会費用	120,000	93,555	役員会6回分
8 幹事会費用	400,000	386,736	幹事会3回分
9 通指費	330,000	298,475	総会、幹事会案内送付等
10 印刷費・コピー代	60,000	61,288	封筒印刷、資料印刷、紙代
11 事務用品	50,000	9,527	
12 渉二葉関係	84,000	84,000	本部総会交通費、歴代正副支部長会他補助
外連合同窓会	57,000	56,000	東京同窓連、南信同窓連
雑費・予備費	100,000	21,470	宅急便、振込み手数料他
支出小計	1,921,000	1,674,708	
次年度繰越金	2,137,469	2,256,540	
支出合計	4,058,469	3,931,248	

### 3 東京支部同窓会基金

項目	収入金額	備考
前年度繰越金	656,000	
平成13年度積立	34,000	寄付金、物故者家族からのお礼金等
合計	690,000	

上記の通りご報告いたします。

平成14年3月31日

会計係 久保田 孝子 ◎  
齋藤 せつ ◎

上記は会計監査の結果開示ありません。

平成14年5月8日

平成13年度会計監査 松下 美智子 ◎  
羽深 喜和子 ◎

# リハビリテーションの世界で 考えてきたこと

—市民が作る共生社会への願い—

鎌倉 矩子先生



## リハビリテーションへのかかわり

本日はお招き頂きありがとうございます。大勢の先輩、後輩、同窓生の皆さんを前にしてお話させて頂くことを大変光栄に存じます。私は諏訪二葉高校を卒業後、東京大学医学部衛生看護学科に入学しました。当時、先生方から「君たちは医学と社会のギャップを埋めろ」と言われ、医学の基礎を教えられました。私がリハビリテーションに興味を持った理由は、現代の若者がボランティアやNGOに興味を持つのに似ている、世の中の未整理の部分に社会正義的な立場から何かできることがあると考えたわけですね。そして作業療法士として臨床場面で一二年、研究

所に一二年、教育職に一六年と、大学を出てから、通算四〇年になります。作業療法とは何か

作業療法とは、「障害者一人一人を対象にして、その人にふさわしい作業のプログラムを提供し、その人にふさわしい生活に戻れるようお手伝いすることである」と言えます。それはリハビリテーション技術の一部でもありますが、その人の力、気持ち、その力も体だけでなく体と脳と心に合わせて、またその人の生き様や生きがいに似合うように、作業や活動ができるようお手伝いすることを目指しています。

## リハビリテーション医療の歩み

一九六〇年代、脊髄損傷等の障害者も自立できるという意識に目覚めたところから、日本のリハビリテーション医療は始まりました。一九七〇年代は脳疾患がテーマになり、運動療法、認知機能訓練が開発されました。そして、一九八〇年代、日本が超高齢化社会に突入した第三の時代には、老化及び老人痴呆の問題が社会問題化され、今ま

で訓練の対象から見捨てられてきた人たちが、リハビリテーションの対象になってきました。そして今ですが、介護者が休むこともできず、大変疲れてきているという事態があります。ここにもその辛さが身にしみている方がいらっしゃると思います。そういう人たちの問題を、リハビリテーションの担当者は、長い間気にしてきませんでした。しかし今までは「してあげる介護」の時代でしたが、これからは「共に生きる介護」の時代です。

## 共に生きる介護の実現に向けて

第一の条件としては、障害者への対処技術を蓄積する必要をあげることができず。第二はそういう認識を社会で共有すること、第三は介護の社会化です。家族が介護の全部を担うのはもう限界であり、社会がそれを支援すべき時代が来たということです。障害をもっている人を特別視せずに皆で一緒に地域で暮らす、そして皆同等の権利を持ち、できるだけ障害者の自己決定権を認めて、一緒に生きていこうということですね。

## 今、私が願っていること

私が皆さんに訴えたいのは、私たちが皆自分の町に帰って、町を良くしようということですね。その方法の一つとして、気軽に行政参加しましょうということをお話したい。今、公的介護

保険の運営は、市町村がやっており、市民が直接これに参加できる場が手近な所にあります。皆さんの中から市会議員、町会議員も出て欲しいのです。

第二は、ボランティア参加を活発にしましょうということです。私の夢は、本当の意味での地域の交流センターが、どの町にもある時代がやってくることです。障害があってもなくても、誰でも好きな時に行ける、人に会いたくなったら行ける、何かをしたくなったら行ける、そういう所です。皆の知恵を出し合って、皆のわが町を創っていく、そういうふうになればいいと思います。ご賛同頂ければありがたいです。(講演の後、家族の介護をしている方やボランティアや職業として介護の仕事をしている方からの体験等が語られ、講師との間で活発な意見交換が行われました。)

## 講師プロフィール

一九三九年長野県生まれ。東京大学医学部衛生看護科卒業後、日本肢体不自由児協会整肢療育園に赴任。以後、東京大学技官、東京総合老人研究所主任研究員、東京都立医療技術短期大学教授、広島大学医学部保健学科教授、二〇〇一年より国際医療福祉大学大学院教授、現在に至る。医学博士。著書『作業療法の世界』(三輪書房)他。

古きよき高女時代

虎岩八千代（高女32回）

私達は昭和十一年四月入学。新築間もない校舎は教室も廊下も米糠できれいに拭きこんであり、ことに体育館の桜の床は顔が映るほどでした。

当時は着物に紺サージの袴、お下げ髪でした。冬は袴、春になるとセル、初夏は緋、夏になると縮織と着物の感触に季節の移り変わりを覚えました。

二年生の半ばから制服になり、襟に三本白線の入ったセーラー服、黒のネクタイ、革靴は当時とすればモダンな服装でした。

諏訪湖が結氷すると間もなく御神渡りがあり、気温は氷点下一五度、氷の厚さは四〇センチ位になりスケートリンクがいっぱい出来ました。一、二月は週に二回位、朝からスケート場に直行、一、二時半まで三時間位滑って、後に学校に登り昼食、午後の授業でした。二月末には、スピードを競ったり橇を曳いたり氷の上ならではの種目の水上運動会をしました。

三年生の夏は

の 今 昔

八ヶ岳登山。硫黄岳と天狗岳でした。右の諏訪側は一面の這松、左は断崖絶壁で足を滑らせたら佐久へ落ちると注意を受け、前の人の足跡を一步一步踏みしめ険しい尾根を登りました。高山植物の女王コマクサ、岩の洞穴で神秘的な光を放つヒカリ苔等は見ました。山頂での爽やかさ、四面の光景は忘れられません。

四年生の修学旅行は京都・奈良。嵐山の麓で休憩というので渡月橋の手前で車から降り、ふと振り返ると仲間に乗る黒塗りのタクシーが三〇台余り長く連なっていました。洛中洛外の社寺国宝・重要文化財の仏像、名園景勝の地をこうして廻っているのかと実感しました。戦争が始まっていますが楽しい学校生活でした。

戦中と敗戦直後の母校

伊崎厚代・江口和子・清水みち

（高女40回）

校舎竣工の慶びの今、半世紀以上前の忌まわしく悲しい思い出が、昨日の防空服で身を固め、教室は疎開者で溢れんばかりだった。食糧増産のため開墾や勤労奉仕等で学業どころではなかった。上級生は湖岸通りの北澤工業へ、私達は高島城隣接の東洋バルブに学徒動員され兵器の生産に従事した。



諏訪湖でスケートをする諏訪高女の生徒（昭和4年ころ）  
【母校！青春アルバム】信濃毎日新聞社

B29の飛来で工場でも避難訓練があり、その最中、昭和十九年一月七日

東南海地震発生、第八工場が倒壊。そのため急遽母校は工場と化し、生産を続行した。あの美しいクリーム色の校舎の外壁が真っ黒に塗りつぶされ、教室の内壁もぶち抜かれた上、床板まで剥がされてコンクリートを打ち、工作機械が据えられた。体育館の見事な桜材の床も同じ運命に晒された。敗戦後、授業が再開し母校に復学。同時に国の教育方針、学制改革で六三三制となり、

私達は高女三九回、四〇回、新制高校一回と卒業年次が三つに分かれ、それぞれ卒業していった。そうした激変する時代の渦中で画期的な明るいニュースに沸き立った。二年着任早々の上條美恵子先生と、三九回卒業の山川純子氏をリーダーとして、他一〇名で体操部を結成。伊崎もそのメンバーで活躍し、昭和二二年秋、金沢市にて開催された第二回国体に参

加。「アルプスの鐘」と題し、三〇〇点満点中二五五点で全国二〇チームの最高点に見事優勝の快挙を遂げた。部員の並々ならぬ努力は勿論のこと、在校生による白米のカンパ等で県外遠征も実現された。全校挙げての協力で栄冠を勝ち取ることが出来たのである。あれから五七年の歳月が流れ、このたびの慶事に巡り合えた幸せを、しみじみと感ずる今日この頃である。

自由な校風の中で个性的に

伊藤 久子（高校13回）

私達は昭和三三年四月から三六年年三月までの二葉生でした。戦後の民主教育もだいぶ慣れてきた頃でしょう。教育史を調べると、私達の学年の前後が義務教育の道徳の授業がなかったことがわかり少々驚きました。

当時は安保問題で社会が揺れ動き、あまり政治に関心のなさそうな輩まで他校生とのデモ集いに顔を出していたほどです。男女交際も堂々とするには気恥ずかしく、それだけに安保集会や学校祭で他校の男子生徒とフォークダンスをするのが熱き血が躍る青春時代的一幕でもありました。

制服は決まっておらず赤いネクタイの標準服はありましたが、皆、私服での通学でした。中にはハデな色や型の服装で通学する人もいたのに、そこが

# 二葉生活

二葉生のスゴイところでしょうか、そちらへは「我関せず」という態度。批判も真似もなかったと思います。生徒会で制服の必要性を議題にした時も、結論は「制服不要」でした。先生方にも自由な校風を支えていただきました。

私達の学年だけの件については、難関と言われた大学への合格者が多く、他の高校からの問い合わせがあったとのこと。また、修学旅行では関西方面、関東方面の希望者が二手に分かれ、実施されたことです。本当に個性の強い学年で、生徒会でもいろいろ企て（？）、生徒会長が教頭先生に苦言をいただいていたと知ったのは、何十年も後のことです。文字通りの汽車通学も窓から入る煙の臭いが、今は懐かしいばかりです。

## クラス替えなしの三年間

桜井佳代子（高校29回）

久しぶりに卒業アルバムを開いて見ました。先生も一緒に競技に参加した運動会・フィナーレのキャンプファイヤーに感激して涙した二葉祭・歌うこ

との大好きだったクラスメイト達・苦楽を共にしたクラブの仲間。いろんな思い出が走馬灯のように浮かびました。しかし、アルバムを見ても思い出せない顔があることに寂しさを感じました。思えば、私達は三年間クラス替えなしで過ごしました。三年生の時には、選択授業で他のクラスの人も交流がありました。行事などはクラス単位、卒業後も同級会は何度か開きましたが、他クラスの人と触れ合う機会はありませんでした。

そんな折、同窓会の東京支部幹事を引き受けることになりました。恥ずかしながら、それまで同窓会のことを良く知らず、不安もいっぱいでした。ところが、幹事会に出席してみると、諸先輩方の情熱と二葉高校への愛情がひしひしと感じられ、大変勉強になりました。定期的に同年会を開いて旧交を温めているというお話を聞き、学年が一つとなっていることをうらやましく思いました。今からでも遅くはない、同じ三年間を共有した者同士、クラスの枠を越えて集う機会が持てたらいと思えます。また、二葉の卒業生であることに誇りを持ち、生き生きと過ごす先輩方の姿に多くの力を頂きました。このように、縦にも横にも広がる同窓会は、素晴らしいと思えます。皆さんもぜひ参加してみてください。

## すばらしき共学時代

伊藤 隆二（高校51回）

諏訪二葉高校は女子高から共学に移って十数年しか経っていません。そういうこともあり、諏訪二葉高校は他校には見られない校風が随所に見られますし、伝統という面でも長い歴史のある学校です。その伝統はたい良い面を受け継がれています。その中で特徴的なのはやはり二葉の女性強い。これは共学になっても変わらない一面だと思います。親戚にも二葉出身者は多いのですが、家庭内で権力を握っているのは二葉女子と言えるでしょう。かかあ天下は円満の秘訣といいますが、そのとおり。二葉の雰囲気はどの学校よりも穏やかだと言われています。さて、共学時代と女子高時代とどこ



が一番変わったかという点、男子と女子が交わることによって学校行事などに選択肢が増えたことです。強歩大会、体育大会、音楽会など学校行事に厚みがあったように感じます。授業の中でも裁縫上手な男子や、男を投げ飛ばす女子などバラエティーに富んでいます。女性と男性が同じように働き、社会に進出するようになった時代。こういった校風は時代にあったものでしょう。

なにより、文化祭は共学になった最大のメリットと思っている人が多いようです（とくに男子）。文化祭で格好をつけるため、男子は部活をサボってでもダンスを必死に覚えます。女子もその日は気合を入れてメイクアップをします。そこには様々な恋物語があります。まあ、自分の友人達には悲話の方が多かったですが…

最後に高校三年間を通して、この学校に入ってよかったというのが率直な意見です。最初は女子が多い学校で不安な面もありました。しかし、そこにある穏やかな雰囲気は他の学校に見られないものでした。二葉生はおとなし過ぎると言われた時もありましたが、これはむしろ良い面としてとらえるべきでしょう。女子高から共学、そしてこれからも、これらのいい面を受け継いでいってもらえたらいいと思います。

# 東京支部ってどんなところ？

## 1 本部との関係及び支部の役割

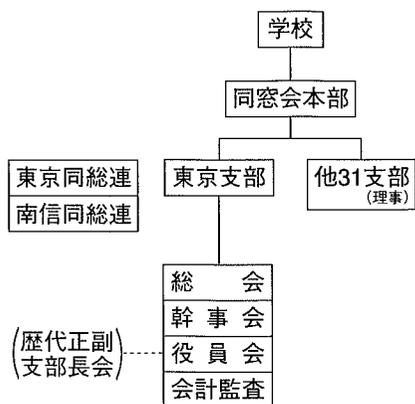
東京支部は、会員数において支部の中で最も大きな組織です。その役割としては、支部長が本部の理事会に出席し、そこでの決定事項を、学年幹事を通して会員の皆さんに伝達するようにしています。また本部の行う定期総会やバス旅行等の諸活動にも参加し、本部及び他の支部の役員や会員の方々と連携し交流を深めております。その他に、支部会員の住所等の変更や物故者を把握し、それを本部へ報告することも支部の大切な役割の一つです。

## 2 東京支部の構成メンバー

会員は、長野県諏訪高等女学校及び諏訪二葉高校の卒業生と同期在籍者で、東京都と首都近郊県にお住まいの方々です。また客員として、旧職員が約五〇名いらっしゃいます。会員数は、高女七回から高校五一回までの三八〇〇余名で、その年齢差は八五歳となります。約三〇〇〇名の会員に東京支部の会報「二葉」を送付しております。

## 3 東京支部の組織と活動状況

★同窓会の全会員が参加する総会  
全会員が構成員であり、同窓会の事業を決定する議決機関です。毎年、五



月に開催されております。前年度の事業及び決算報告、そして本年度の事業講演会、茶話会がもたれております。総会は先輩、後輩そして先生方との心温まる交流の場として、終始和やかな雰囲気にならながらも、その層の厚さ、心の絆を感じる機会となり、会員一人一人の同窓会への関心を深める機会になっております。

★学年代表から構成されている幹事会  
幹事は、各学年から推薦され、同窓会と各学年との連絡を図ることが任務になっております。幹事会は、年間三回開催されております。平成一四年度

の第一回幹事会においても、事業計画についてのご意見を頂いた後、各同窓会の報告及び在籍当時の学校生活の紹介がなされ、世代を越えた交流の場がもたれました。

★同窓会を実際に運営していく役員会  
役員会は、支部長のもとに副支部長三名、会計係二名、記録係三名の九名で構成されております。なお会計監査二名は、必要に応じての出席となっております。任期は一年で、役員会は年間六回もたれております。役員会の議事は、総会及び幹事会の運営、会報及び会員名簿の発行、各学年の同期会との連携、本部との交流、維持費の徴収等、毎回盛りだくさんの内容が検討されております。各役員の出選に関しては、各役員の担当学年が運営内規で決められておりますが、毎年苦勞するところではあります。しかし、「しかたがなく引き受け大変だったが、やってよかった」との声が多く聞かれます。

## 4 長野県の他校の同窓会との連携

東京支部は、東京同窓連（長野県高等学校同窓会東京連合会）及び南信同窓連（南信地区高等学校同窓会東京支部）との連携も深めております。支部長が各同窓連の役員を兼ね、総会は長野県の他校の同窓会との交流の場になっております。

## 短歌

梅の郷にて

原田静枝（高女16回）

豆まきて心の鬼を追い払い

今日節分会の甘酒に酔う

梅の香の家毎かほる街並み

梅の郷と言うはむべなり

九五になり口紅さすはおもはゆし

されど白髪さゆると皆は言う

## 俳句

石路の会

中村博子（高校12回）

この会は諏訪二葉同窓会の花野句会の方々のご尽力により平成一二年一〇月に発足し、毎月千代田区立番町小学校で楽しい句会を開いています。講師は俳誌『岳』主宰宮坂静生先生。一月の兼題「初冬」で会員の詠んだ句の一部を紹介いたします。

菊花展一椀の茶の旨きかな

冬うらら紅差指で紅を引く

立秋の散骨の海あたたかし

仔犬抱くほのかな温み十一月

七つ目の青金柑を捜しけり

叩かせて波に休らふ冬髯

フラメンコギターに冬の忍びよる

## 書道

後町みさ子さん（高校15回）が平成一三年の日展に入選されました。

# 校舎竣工記念

## 式典に参加して

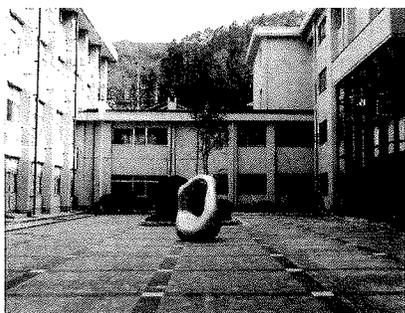
青木武子  
(高女36回、元支部長)

東京出発時の雨が嘘のように、降り立つと上諏訪は秋晴れ。まずは校舎へ向かう。私達の心に鮮やかなアーチは、美しいステンドグラスを掲げてはいるが、昔のままの雰囲気を迎えてくれた。改築された校舎は木の香り豊かに、新しさの中、旧校舎の面影を残す配慮があつて親しみ深い。

気持ちになる。県校長会会長のご挨拶では、IT時代にハードばかりでなくソフトを充実させ、未来に向かって頑張つてほしい、と。同感する。記念講演でアルピニスト野口健氏は「日本では環境教育が無い。これからは環境に配慮し地球を守ろう」と結ばれた。県下初の太陽光システムを持つ校舎もその一端だ。すばらしいことだ。

式典前に井上玲子さん制作のモニュメントの除幕式に参加のために中庭へ。中庭は明るく皆が集まるのに相応しく、モニュメントが置かれることを誇つて、心から喜びとしている様子である。除幕されたモニュメント「揺籃」は銀白色に優しく輝いていた。生徒会長は「心のゆりかごにしたい」と挨拶。

式典は一時三〇分から小体育館で。生徒さん、実行委員会の方、PTA、同窓生も多く盛大である。初めに携帯電話を切るようにと主に生徒に向かつてであるう注意があり、今様だなあと聞いていたが、式の間、実に静粛で爽やか。改築についてのご挨拶、感謝状贈呈の後、生徒代表の「伝統を守っていききたい」という素直な挨拶に温かい



モニュメント「揺籃」と中庭全景

謹んでご冥福を

お祈り申し上げます

(平成14年12月31日現在)

〔客員〕

松本 尚家先生 H 14

〔会員〕

高女3 牛山 せい様 (北原) H 12

13 河西 つね様 (田中) H 14

14 田中 美代様 (太田) H 11

15 鬼形いつ子様 (宮坂) H 12

16 木川キ久ミ様 (小平) H 13

17 大島すみ多様 (笹川) H 13

18 菊池 芳子様 (山崎) H 12

19 鈴木満津恵様 (鈴木) H 12

20 矢島 愛子様 (伊藤) H 13

21 大河平武子様 (原田) H 13

22 小林あや子様 (小口) H 13

23 木村 梅子様 (片倉) H 13

24 佐原 富美様 (阿部) S 62

25 関原千藻子様 (岩波) H 10

26 竹内 幸 様 (五味) H 12

27 前田 不二様 (細川) H 13

28 小坂はつ子様 (林) H 14

29 酒井 志づ様 (小林) H 12

30 吉田婦王子様 (名取) H 13

31 長島しげ子様 (名取) H 13

32 宮坂ちとせ様 (小平) H 11

33 小池 咲子様 (三井) H 12

34 秋山うめ子様 (太田) H 12

35 平田 ちよ様 (藤森) H 12

36 小口八重子様 (藤森) H 12

37 岩崎 あや様 (両角) H 13

38 狩野 まつ様 (塚原) H 13

39 池上志づ子様 (中村) H 13

高女24

吉元 久子様 (出浦) H 14

25 北原みつ子様 (矢崎) S 62

26 勝田 直子様 (上田) H 11

27 田中 レイ様 (五味) H 13

28 近山みち多様 (伊藤) H 12

29 内海喜代子様 (田中) H 9

30 八田加奈子様 (下条) H 11

31 大高久美恵様 (小滝) H 11

32 芳沢 静子様 (藤森) H 13

33 青柳 敏 様 (小川) H 14

34 山本 光子様 (高田) H 14

35 遠藤 美智様 (進藤) H 11

36 元山いく子様 (後町) H 13

37 金子まき江様 (五味) H 14

38 藤森 和恵様 (宮坂) H 11

39 安田 浪子様 (浜) H 13

40 北村 頼子様 (林) H 14

41 萩野 清子様 (上原) H 13

42 矢島美津子様 (原) H 13

43 大久保民代様 (小松) H 14

44 伊東 文子様 (花岡) H 14

45 鈴木百々子様 (両角) H 13

46 小口美代子様 (三沢) H 14

47 新津 幸子様 (新津) H 13

48 小口八重子様 (島田) H 14

49 原田 良子様 (丸山) H 13

50 戸沢 克予様 (今井) H 14

51 三井 和子様 (島立) H 13

52 茅野 弘子様 (上条) H 13

53 猪井 久代様 (高石) H 14

54 長田 松子様 (名取) H 14

55 瀬戸 洋子様 (名取) H 13

56 岩本 延子様 (土橋) H 13

57 細谷るり子様 (伊藤) H 12

58 植木留美子様 (古川) H 11

## 東京支部活動記録

### 《平成12年度》

役員 支部長 千田洋子  
 副支部長 中沢優子 河西八恵子 中川美侑  
 会計 細田和子 湯沢法子  
 記録 中坪清子 清水久美子 杉浦澄尾  
 監査 守屋静子 竹内美穂

### 《平成13年度》

役員 支部長 河西八恵子  
 副支部長 中川美侑 北沢妙子 守屋静子  
 会計 久保田孝子 齋藤せつ  
 記録 坂入美根子 杉本七美江 中村友江  
 会計監査 羽深喜和子 松下美智子

年月日	事項	備考
6/14	第1回役員会	年間事業計画、役員役割分担、支部便り「7号」の発行について、会則・内規の確認、役員・幹事名簿
7/1	第1回幹事会	第1部：12年度事業(案)検討、本部理事会等の報告 第2部：交流会「先輩から後輩へ、後輩から先輩へ」
10/4	第2回役員会	同窓会活性化について、総会講師の検討、次年度役員期の幹事への説明、残名簿の活用(113部)
12/1	第3回役員会	会計中間監査、「記録」ノート整理方法について「同期会」アンケートのまとめ(開催状況等)
(H13) 1/12	歴代正副支部長会	現状報告諮問と懇親会(23名/於「加寿翁」)
1/27	第2回幹事会	第1部：定例会(現状報告、同期会活性化、総会関係、追加・訂正名簿、内規について) 第2部：新年幹事交歓会―“新世紀に思う”―(校歌斉唱・乾杯・メッセージ交流等)
3/14	第4回役員会	会報「二葉」7号発行と報告、本部・同窓連関係、第3回幹事会準備(総会内容と総会までの準備確認)
4/4	第3回幹事会	総会関連事項の検討確認、総会案内等一括発送作業
5/9	第5回役員会	(新・旧役員合同)会計監査、引き継ぎ、総会準備
5/25	第6回役員会	(新・旧役員合同)総会前日準備・作業
5/26	平成13年総会	出席者302名(会員294名・来賓8名)
・東京支部だより「二葉」7号発行 ・本部理事会出席6回、本部総会出席、本部親睦旅行参加 ・南信同窓連出席5回、東京同窓連出席5回		

年月日	事項	備考
6/13	第1回役員会	年間事業計画、役員役割分担、会員名簿(学年版)発行について検討
7/8	第1回幹事会	役員幹事自己紹介、会員名簿(学年版)発行校舎改築記念事業募金への協力呼びかけ
10/3	第2回役員会	会員名簿作成手順分担確認 同期会活性化のための情報交換会について検討
12/5	第3回役員会	中間会計監査報告 次期役員選出学年幹事、選出予定者との懇談 新卒生への入会お誘いパンフレット作成について検討
(H14) 1/11	歴代正副支部長会	東洋軒にて27名出席 現状報告(記念事業・会員名簿・14年総会講師)
1/23	第2回幹事会	会員名簿プレビュー版配布訂正依頼 14年総会講師プロフィール紹介、同期会活性化のための情報交換会
3/4	第4回役員会	会員名簿(学年版)発行、総会・講演案内検討
4/3	第3回幹事会	総会案内、会員名簿(学年版)発送
5/8	第5回役員会	新旧合同、会計監査、係引継ぎ、総会準備
5/23	第6回役員会	総会進行・議長役割練習、総会前日準備
5/24	平成14年総会	出席者274名(会員266名、来賓6名、客員2名)
・会員名簿(学年版)発行 ・本部理事会出席6回、本部総会出席13名 ・南信同窓連出席5回、東京同窓連出席3回		

☆両年度、幹事会終了後に役員会を開催。☆本部及び連合会の内容は、各役員会・幹事会にて報告 ☆幹事会議題は、役員会の事項を受けて検討や承認を受ける。《紙面の都合上、概略のみの掲載です》

福島裕子(高20)  
 小島由美子(高20)  
 稲村和子(高15)  
 伊藤一枝(高12)  
 北沢妙子(高11)  
 編集委員

佐藤すず江(高20)  
 守屋静子(高11)  
 加室弘子(高12)  
 金子紘美(高15)  
 協力に感謝いたします。(伊藤記)

◇花山こと子(筆名・未朶望、高校19回)「思う人々に生かされて」愛生社  
 平成一四年六月刊。  
 ◇浜栄助先生(平成八年逝去)「原色日本のスミレ」増補」誠文堂新光社、平成一四年六月刊。これは先生が教員をなさりながら全国のスミレ生息地を歩き回って採集された標本を水彩画で克明に記録されたものです。

◇第一回幹事会での先輩方の生き生きとした発言に促されて「二葉生活の今昔」を特集に組んでみました。同じ同窓会に属すメンバーであるのに、高女時代から共学時代までの体験の違いの幅に、改めて驚きました。  
 ◇カットは田中令子さん(高校12回)のお世話になりました。

◇ご執筆をお願いした先生や同窓生の全ての方が快く引き受け、期日をきちんと守ってくださいました。皆様のご協力に感謝いたします。

### ● 図書紹介 ●

### 平成15年 東京支部総会のお知らせ

☆日時：平成15年5月23日(金) 10:30~15:30  
 ☆会場：日本青年館4F ホテル宴会場「アルデ」(元 東洋軒)  
 講演：「揺籃」の誕生 ~かたちとところ~  
 講師 井上玲子先生  
 (高校3回、母校中庭モニュメント作者)  
 昼食 パーティー 会費5,000円

### 本部定期総会のご案内

日時 平成15年5月10日(土) 9:30~  
 会場 シティホテル成田屋  
 TEL 0266-52-4500  
 講演講師 藤森照信先生(東京大学教授)  
 申込み 母校事務局(Tel 0266-52-4628)